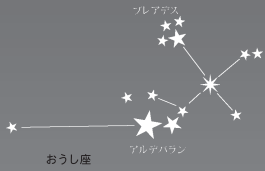


# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## 秀峰 羊蹄山

羊蹄医師会 会長 皆川 幸範

先日「11月上旬の寒気が北海道上空に入り込む」との天気予報がありました。翌朝の倶知安はとても寒く、わが家の居間から見る羊蹄山（標高1,898m）は、雲の帽子をかぶっていました。天気が次第に回復し山頂が見えるようになると、そこは白いお化粧をした羊蹄山の初冠雪でした。今年は新しい山小屋が完成し、古い山小屋を懐かしむ登山者が冠雪後も多かったようです。3年前に羊蹄登山をして、旧山小屋の前で家内と豪・新・米の若者3人（友人）と記念撮影したのが、小生の思い出です。今年予定していた登山は残念ながらできませんでしたが、来年再度チャレンジしたいと思っていますところでは。

北海道医師会後志ブロックは小樽・余市・岩宇・羊蹄・寿都の医師会からなっています。今年初めて寿都医師会の秀毛先生が、後志ブロック大会を黒松内で開催されました。小樽の先生方と長瀬道医師会長は、バスで2時間少し、余市・岩宇・倶知安の先生はタクシーで1時間ほど要して現地集合しました。特別講演会と懇親会で、後志地区の自然の豊かさを改めて認識し、他の医師会先生方と親睦を深められてとてもよかったです。北限ブナ原生林の自然が広がるその中で行われた、秀毛先生の「お・も・て・な・し」には大変感謝しております。

自然豊かな後志ですが、少子高齢化はいずれも同じ、農林・水産・医療などTPPの妥結次第では、さらなる問題が出てくる懸念もあり心配しております。少しでも長く地元で医療を続けられるように、自分の健康にも注意しながら周りの先生方と協力していきたいと考えています。

今日の羊蹄山は、いつも通り悠然と輝いていて、とってもきれいです。元気をもらって今日も頑張ろう。



## 認知症に関する多職種連携会議を終えて

岩内古宇郡医師会 会長 石山 直志

去る10月17日、当医師会は標記の会議を主催した。今年度の事業計画の一環であり、国が今年度から始めた「認知症施策5か年計画（オレンジプラン）」を意識した内容とした。7職種の演者が登壇した。医師による基調講演では、まず認知症の正確な診断の重要性が強調された。実際、出発点が誤っていれば、その後の過程に大きな影響を及ぼすことは明白である。治療に関しては、抗認知症薬の選択肢は増えたが、あくまでも症状の進行を遅延させる効果であることを理解した。続いて6職種の演者が現状報告をした。歯科医師は、訪問診療の経験を交え、口腔ケアと咀嚼運動の大切さについて述べられた。薬剤師は、処方薬剤をいかに間違いなく患者さんに服用させるか、またどのような剤型が服用しやすいかについて日々腐心されていることを報告された。訪問看護師は、これまでに体験された豊富な事例の中から、教訓的な例を紹介された。そこでは、周囲の住民や民生委員等による気づき、通報の重要性が述べられた。介護支援専門員は、地域包括支援センターの活動に触れ、認知症関連の相談件数の著しい増加について報告された。福祉行政の立場からは、岩内町民生部課長が、オレンジプランの詳細と岩内町の現状について報告された。住民の詳細な情報は町村が一元的に把握し、関連職種の実務に活かすべきと思われた。最後に「岩内町認知症の人を支える家族の会」会長が、この5年間のさまざまな活動について述べられた。

最新のデータでは、日本の高齢人口の15%、462万人が認知症という。医療分野だけでは完結せず、介護・福祉分野にも及ぶ認知症。今回の会議を通じて、普段うかがい知ることのできない多職種の方々が抱える問題点を共有し、今後の当地域における認知症診療ネットワーク構築の参考になった。本会議に参加された方々に御礼申し上げます。認知症対策は正にその地域の医療・介護・福祉行政の総力戦である。